

# 上益城郡教科等研究会（中学校社会科部会）

## 令和元年度 研究活動のまとめ

### 1 研究テーマ

**民主主義の担い手に必要な資質・能力を育成する社会科  
～課題追究の中で達成感を味わえる授業づくりを通して～**

### 2 研究経過

月日（曜日）	活動内容	活動場所	人数
6月3日（月）	第1回上益城郡教科等研究会中学校社会科部会（半日） 昨年度反省、本年度研究テーマ協議、研究組織づくり等	山都町立 矢部中学校	23名
10月21日（月）	第2回上益城郡教科等研究会中学校社会科部会（半日） 研究授業 単元：地理的分野 「日本の諸地域 中国・四国地方」 授業者：山都町立清和中学校 酒井 健太郎 教諭	山都町立 清和中学校	17名
12月16日（月）	第3回上益城郡教科等研究会中学校社会科部会（半日） 講話「コンテンツベースからコンピテンシーベースへ ～社会科の授業づくりをどう進めるか～」 講師：熊本大学教育学部 准教授 藤瀬 泰司 氏	益城町立 木山中学校	17名
1月23日（木）	第4回上益城郡教科等研究会中学校社会科部会（半日） 今年度反省、次年度県大会に向けた指導案検討	益城町立 木山中学校	23名

### 3 研究の概要

#### (1) 研究の内容

研究テーマ「民主主義の担い手に必要な資質・能力を育成する社会科～課題研究の中で達成感を味わえる授業づくりを通して～」のもと、「課題設定の工夫」と「話し合い活動の充実」の2つを実践項目として研究に取り組んだ。

昨年度の活動を振り返ることで「生徒の問題意識を持続させるのに適した学習課題をつくるのができてない」「話し合い活動において、深まりのある話し合いを生み出すことができていない」という課題が見えてきた。そこで、この課題を解決するために、昨年度の実践事項を研究の柱として、引き続き実践をしていくこととした。

研究授業及び授業研究会では、2年生地理的分野「日本の諸地域 中国・四国地方」について取り扱い、研究テーマと実践事項を踏まえて取組を行った。生徒の問題意識を持続させるのに適した学習課題をつくるために、単元を貫く課題を「中国・四国地方の都市や農村で見られる課題の考察を通して、私たちの住む清和地区がこれから何を実現していくべきか考えよう。」と設定した。また、深まりのある話し合いを実現するために自分の班で話し合った内容を、隣の班に説明するという手法をとることとした。今回の実践は、新学習指導要領の考え方にもつながる参加者にとって学ぶところの多い授業となった。

第3回の理論研修では、熊本大学教育学部准教授 藤瀬泰司氏を講師に迎え、「コンテンツベースからコンピテンシーベースへ～社会科の授業づくりをどう進めるか～」という演題で講話をいただいた。授業の具体例を示していただきながら、今行っている授業をどのように変えていく必要があるのかを学ばせていただいた。各会員にとって、今後の授業づくりにつながる大変意義ある研修となった。

#### (2) 成果と課題（○成果 ●課題）

- 中国・四国地方の学習内容を身近な地域と関連づけ、生徒の学習意欲を高める課題設定の工夫をすることができた。
- これまで学習した内容を生かした課題追究のさせ方についてはさらなる工夫が必要である。
- 話し合い活動を通して、授業をより主体的・対話的な学びにしていけるためには、今後さまざまな活動をつくりながら、よりよいものに磨き上げていくことが必要である。

## 4 実践事例

### (1) 授業の概要

2年生地理的分野「日本の諸地域 中国・四国地方」の研究授業を山都町立清和中学校の酒井健太郎教諭が行った。本四連絡橋の開通により生活が変化した地域を参考に「清和がこれから豊かに発展するために、九州中央道と清和のよさを生かした町づくりを考え、自分の言葉でまとめることができる」という目標に迫った。授業内容において、特に意識されていたのは次の3点である。

- |             |                              |
|-------------|------------------------------|
| ① 課題設定の工夫   | 生徒の関心が高い題材を取り上げ、本時のめあてにつなげる。 |
| ② 提示資料の精選   | 様々な視点から考察できるように資料を提示する。      |
| ③ 話し合い活動の充実 | 付箋を活用することで、より効率的な話し合い活動にする。  |

#### ① 課題設定の工夫

導入では、前時までにまとめた応用紙を見ながら学習内容を振り返らせ、過疎地域である身近な地域との共通性に気付かせることができた。さらに、九州中央道の開通予定地図から、清和地区にICができないことを取り上げたことで、九州中央道と清和地区の将来について考えたいという、生徒の課題追究の意欲を高めることができた。生徒の生活につながる題材やわかりやすい資料提示が、学習意欲の向上につながることで、今回の授業でも確かめられた。授業研究会では「資料提示の方法を工夫することにより、四国地方との共通性などに気付かせることができたのではないか」という改善案が出された。



[前時を復習する様子]

#### ② 提示資料の精選

移動時間の変化や町内観光地の集客数の推移などに関する5つの資料をもとに、一人学びから班での話し合い活動へつなげる展開で授業が進められた。それぞれの資料から読み取ることのできた情報を出し合い、多方面から清和地区の発展について考察することができていた。資料によっては、情報収集が難しいものもあり、資料の読み取りに苦しむ生徒の姿も見られた。話し合いでは、互いに資料を確認し合う姿が見られ、一人学びでは気づけないことに気づくなど思考を深めることはできていた。今後の授業改善に向けて「どんな目的でどんな資料を提示すべきか」を考え、必要な資料を精選して提示することの大切さが確認された。



[提示された資料]

#### ③ 話し合い活動の充実

付箋を使った話し合い活動は、短時間でより多くの意見を出し合ったり、意見をまとめたりする手段としては有効であった。今回授業を行った学級は9名で構成され、3人1班で班活動が行われた。少人数の学級では、意見の偏りや友達の意見に合わせる傾向も見られがちである。そこで、付箋に書かせることで一人学びの時間が確保され、同じ意見をまとめる活動もスムーズに行うことができていた。また、今回は班の代表1名が2つの班を回って自分たちの班で出てきた考えや意見を説明し、聞いた生徒が質問をするという形態の工夫が行われたが、考えを正確に伝えるために班内でも伝える内容を確認する様子が見られた。



[他班で説明する様子]

(2) 学習指導案

社会科（地理的分野）学習指導案 指導者 山都町立清和中学校 教諭 酒井健太郎

- 1 単元名 第3章 日本の諸地域 中国・四国地方一都市と農村の変化と人々の暮らし—  
第4章 身近な地域の調査 (東京書籍 p.191～p.202 p.264～281)

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、新学習指導要領の地理的分野「内容」「C 日本の様々な地域」の「(3) 日本の諸地域」にあたる。新学習指導要領では、日本の地域的特色と地域区分について、①自然環境、②人口、③資源・エネルギー、④交通・通信などの小項目から、課題を設定し追究したり解決したりする活動を求めており、本単元では、人口や都市・村落を中核とした考察や交通や通信を中核とした考察を通して、地域的特色や課題を明らかにすることをねらいとしている。また、学習指導要領の改訂で、これまで独立した形で授業をしていた身近な地域の調査が、各地域を通しての学習に組み込まれたことを受けて、中国・四国地方の学習が最終的に身近な地域である清和地区の課題探究につながるように単元を設定している。

日本は、産業の発達や交通網の広がりなど、都市を中心に発展を遂げている。しかし一方で、少子高齢化が年々進み、日本全体の人口は大きく減少しており、特に農村部では過疎化が進み地域社会の維持機能が低下した限界集落が増加している。農村から都市へと人口の流入、過密・過疎化などによって、都市部と農村部では大きな格差や新たな課題が生まれており、課題解決は急務である。本単元では、中国・四国地方の都市と農村との関係を学習し、地域的特色や課題を考察していく。そして最終的には、その関係を私たちの住む清和地区に当てはめて比較していく過程で、これからの農村部が持続可能な社会を実現するために何が出来るかを、生徒一人一人が考える機会としたい。

(2) 生徒観

本学級は9人で、生徒同士の仲が良く、思いやりをもって接する生徒が多い。授業中は、手を挙げて自分の意見を発表したり、分からないことを積極的に質問したりする生徒が多い。学習に対する意欲も高く、課題に一生懸命取り組む生徒が多い。また、アンケート結果からは班で一緒に考えることを好む生徒が多いことが分かった。本単元については、中国・四国地方にある県をよく覚えていたり、過密や過疎の原因や影響をよく理解したりしている一方で、中国・四国地方の具体的なイメージはあまりないことが分かった。また、清和については、主に自然環境や文化などの面で良さを感じており、「過疎地域」、「田舎」、「交通の便が悪い」、「高齢者が多い」、「店が少ない」などを課題に感じていることが分かった。人口や交通、産業などの視点で捉えられている生徒が多数いるので、中国・四国地方の特色を捉えたり、清和との比較をしたりしていく中で、それらの視点を生かした授業をしていきたい。

(3) 指導観

- ・1次では、中国・四国地方の人口や産業などの大まかな地理的特色について捉えさせ、2次では都市と村落の産業や交通に目を向け、それぞれの現状と課題について考えさせる。3次で、都市と村落の役割と課題を中国・四国地方の地域的特色を踏まえてまとめさせ、4次で身近な地域である清和の課題を探究していくようにする。
- ・単元を貫く課題として「中国・四国地方の都市や農村で見られる課題の考察を通して、私たちの住む清和がこれから何を実現していくべきか考えよう。」というテーマを設け、各時間でイメージマップや表などにまとめていくようにし、生徒がより意欲的に探究活動に臨めるようにする。
- ・授業では、資料の読み取りから自分の考えをもつ時間を十分に確保するとともに個人でペア活動やグループ活動を積極的に取り入れ、主体的・対話的で深い学びになるようにする。
- ・社会科の学習を通して、生徒が清和のすごさや誇れる部分を捉え直し、プラスのイメージで終われるようにしていく。

3 単元の指導計画と評価（規準）計画（全6時間 本時5/6）

次	時	主な学習活動	評価
単元を貫く課題：中国・四国地方の都市や農村で見られる課題の考察を通して、私たちの住む清和地区がこれから何を実現していくべきか考えよう。			
1	1	中国・四国地方の生活の舞台 中国地方の地形や気候などの自然条件を理解し、単元を貫く課題を設定する。	○山陰・瀬戸内・南四国の3つの地域の自然の特色を、地図や雨温図から読み取っている。(資料活用の技能)
	2	中国・四国地方の人々の営み	○中国・四国地方の人口分布や産業分布

		中国・四国地方の産業が、山陰・瀬戸内・南四国で異なることを理解する。	の特色を、自分の言葉で書くことができる。(知識・理解)
2	3	<b>都市の役割とその課題</b> 中国・四国地方で人口が増加している都市の特徴を、地形や交通の視点から考える。	○人口が増加している過密地域の特徴を、様々な視点から考えることができる。(思考・判断・表現)
	4	<b>高齢化が進む農村と町おこし</b> 過疎化が進む農村がどんな課題に直面しているのかを資料から読み取り、それをどう克服しているのか考える。	○四万十町の町おこしの特色について、資料から意欲的に読み取ろうとしている。(関心・意欲・態度)
3	5	<b>交通網の発達における地域の変化</b> 交通網の整備が過疎地域の人々の生活に与えた変化について、資料を根拠として説明する。	○交通網の整備が過疎地域の人々に与えた影響について、資料を根拠にして説明している。(資料活用の技能)
4	6 本時	<b>清和地区について考える</b> 清和がこれから豊かに発展するために、九州中央道や清和のよさを生かした町づくりを考え、自分の言葉でまとめることができる。	○九州中央道や清和のよさを生かした町づくりを考え、自分の言葉でまとめている。(思考・判断・表現)

#### 4 本時の学習

##### (1) 本時の目標

清和がこれから豊かに発展するために、九州中央道や清和のよさを生かした町づくりを考え、自分の言葉でまとめることができる。 【思考・判断・表現】

##### (2) 本時の展開

過程	時間	主な学習活動	学習形態	○教師の指導 ・予想される生徒の反応	備考
導入	3	1 前時の学習を振り返る。	一斉	○交通網の整備によって中国・四国地方の人々の生活が大きく変わったことを振り返る。 ○命の道としての期待や、矢部と蘇陽にしかICができないことを伝え興味を持たせるようにする。	前時までの資料
	5	2 九州中央道の現在と今後の整備計画を知る。	一斉		
<b>めあて：九州中央道と清和のよさを生かした町づくりを考え、自分の言葉でまとめよう。</b>					
展開	2	3 学習課題を確認する。	個人	・中央道が延伸することで時間距離が縮まり観光客の増加が見込めるので、青葉の瀬や天文台などの自然や文楽人形劇などの文化をもっとPRしていく。 ・清和の近くにICができれば時間距離が縮まり、清和から熊本への通勤や買い物などに利用でき、利便性が高まるので、移住する人が増えるのでは。 ○班で話し合い深めた考えを、自分の言葉でまとめさせる。	学習プリント 資料プリント 付箋紙 用紙
	10	4 中国・四国地方での学習内容や視点を生かして学習課題について、追究する。	班		
	10	5 考えたことを付箋紙に発表し合う。	全体		
	10	6 全体で考えを深める。	個人		
まとめ	5	7 本時の学習をまとめる。	一斉	○トマト農家や文楽館の方のお話や戦略について紹介する。	パワーポイント
	5	8 清和のよさやすごさを感じる。			

##### (3) 本時の評価

場面	評価基準
評価	A：複数の視点から町づくりを考え、自分の言葉でまとめている。 B：九州中央道や清和のよさを生かした町づくりを考え、自分の言葉でまとめている。